

宇都宮市立西原小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」と回答した児童の割合は、県・市町平均と比べて高く、各教科の授業の中で言語活動を積極的に取り入れている成果が表れている。今後は、友だちの話や意見を最後まで聞いた上で、話し合いたいと思えるような発問を工夫するとともに、一人一人の意見をつなぐコーディネートに留意した話合いの充実に努めていきたい。

●本校では、けいたい電話やスマートフォンを持っている児童は、約40パーセントいるが、その児童に「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、けいたい電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしていますか」という設問したところ、2時間以上と回答した児童の割合が、市や県の平均と比べると上回っている。今後は、情報メディアの使用方法や約束について家庭と連携を図りながら指導していきたい。

○「自分にはよいところがあると思う」「先生は学習のことについてほめてくれる」「家の人はあなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」という設問について肯定的回答をした児童は、県や市と比べて割合が高く、学校全体で児童を認め、励ます教育を推進していることが自己肯定感につながっていると考えられる。今後も、学校と家庭が連携して、児童の努力や成長を見守り、指導していきたい。